

企業向け

福井県インターンシップ 導入ガイドブック

自社PR

志望学生
が増える

ミスマッチ
が減る

社会貢献

大学との
交流

学生視点
の活用

職場の活
性化



主催 福井県総合政策部ふるさと県民局
若者・定住支援課

事業受託 福井県経営者協会



福井市西木田 2-8-1 (福井商工会議所ビル 7F)

TEL (0776) 63-6201 FAX (0776) 63-6202

01 はじめに

福井県インターンシップの導入を検討されている企業(団体)の皆様へ

経済社会・産業構造の急速な変化に対応するため、県内企業等においては、企業等が有する技術やノウハウ等の経営資源の有効活用と、それを実践する人材の確保・育成が重要な課題となっています。

そこで、次代を担う学生に対し、県内企業の実態や地域企業活動への理解を深めるとともに学生の就業観醸成のため、福井県ではインターンシップの推進に取り組んでいます。

このガイドブックでは、福井県インターンシップの概要、導入に際してのポイント、受入に関する留意事項などを紹介していますので、インターンシップ導入に向けてお役立てください。

インターンシップとは

インターンシップとは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」とされ、学生が企業・団体(以下企業という)において実習・研修を目的とした就業体験を行う制度と定義づけられています。

各大学においては、インターンシップの経験を通して、さらなる学習意欲の喚起と、将来の職業選択や職業意識の育成を図ることができる機会と捉え、キャリア教育の一環として位置づけています。

学生においては、前に踏み出す力(主体性・実行力)、考え抜く力(課題発見力・創造力)、チームワークで働く力(規律性・傾聴力・柔軟性)といった「社会人基礎力」を養い、産業や社会について知見を深める場として、積極的に参加する学生が増えています。

02 インターンシップの意義・メリット

インターンシップは、受入れる企業、学校、体験する学生等、それぞれにとって、次のような意義があるものと考えられます。

(1) 企業における意義・メリット

① 自社や業界を理解してもらえます

学生を受入れることで、業界のことや、自社が取り扱っている商品・サービス等を正しく理解してもらい、良い機会になります。

② 職場の活性化につながります

学生を受入れることは、自社のこれまでのやり方を見直す機会となり、社内の活性化を図るきっかけにもなります。また、学生からの指摘は、思いがけない改善を生むこともあります。

③ 大学等との友好関係を築けます

大学等との接点が増えることにより、大学や学生を送り出す立場の先生との連携が深まり、人材の確保が定期的に行えるようになることが期待されます。また、大学等との共同研究や交流等、産学連携活動に発展することもあります。

④ 採用につながる可能性があります

インターンシップを採用と結びつけることは、禁止されています。しかし、受入れをすることで、貴社を希望する学生が増えたり、企業が求めていた人材と出会うこともあります。また、企業と学生の双方が“入社後のミスマッチ”を防ぐことにもなります。

⑤ 社員の成長につながります

学生に正しく指導する、業務をわかりやすく説明することは、担当者の成長につながります。また、受入れの際に作成した資料はやマニュアルは、新入社員用の研修テキストとしても活用できます。

⑥ 学生の新しい発想を生かせる可能性があります

自社の課題や情報収集を研修に取り込むことで、学生の新鮮な発想や、情報分析による解決策が生まれることもあります。

(2) 大学等の教育サイド、学生にとっての意義・メリット

インターンシップは、基本的には大学教育の一環と位置づけられています。

①教育内容・方法の改善・充実

アカデミックな教育研究と社会での実地の経験を結びつけることが可能となり、また、産業界のニーズを学校教育に反映させて教育内容・方法の改善・充実につなげることができます。

②自主性・創造性に富む人材の育成

企業の現場で就業体験を積み、専門分野における高度な知識・技術に触れながら実務能力を高めることは、自主的に考え行動できる人材の育成にもつながります。

③高い就業意識の育成

学生が就業体験を行うことにより、自分の職業適性や将来設計について考える良い機会となり、主体的な職業選択や高い就業意識の育成が図られます。またこれにより、就業後の職場への適応力や定着率の向上にもつながります。

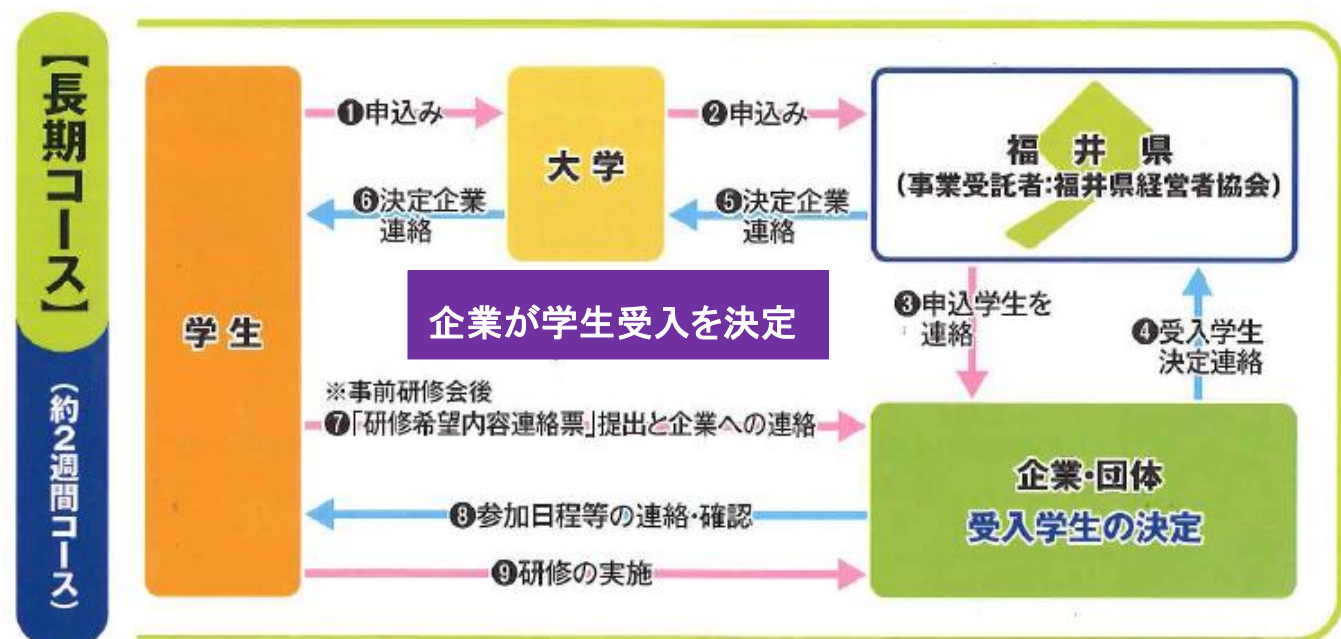
④学生の社会人基礎力の向上

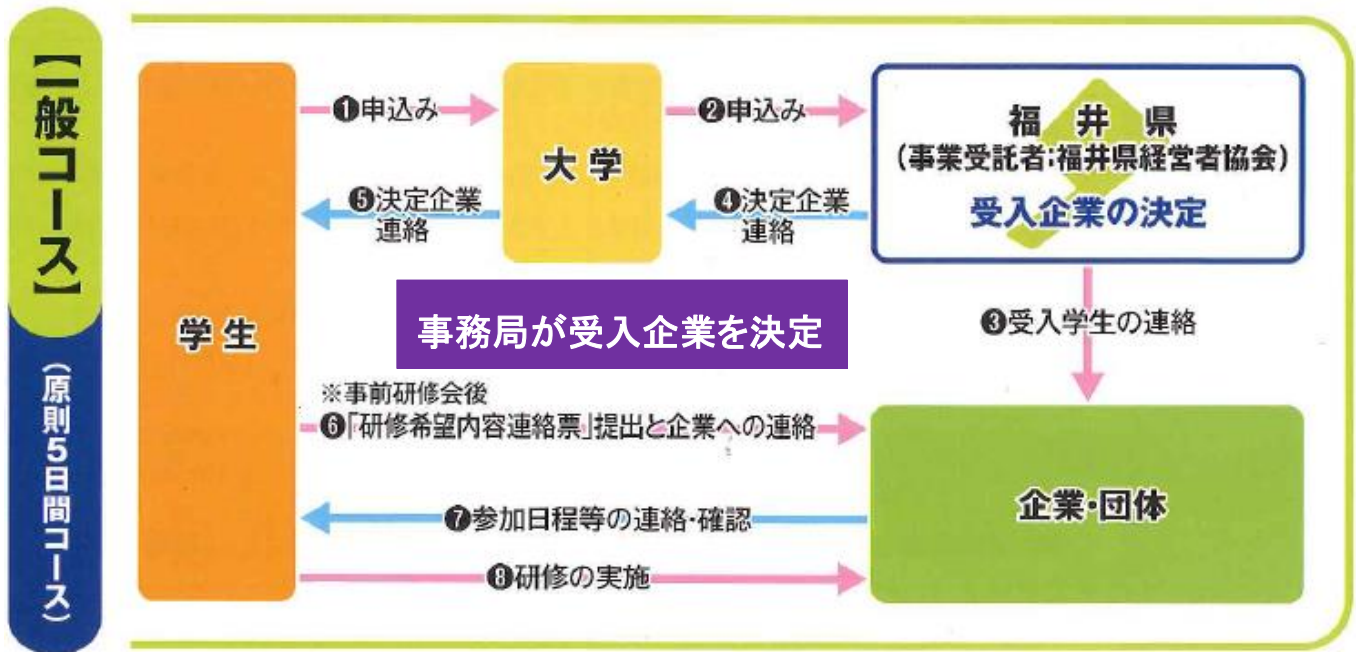
研修に参加することによって、社会人としての姿をイメージすることができ、かつ社会人基礎力が鍛えられます。さらに、業務に必要な知識・技能を学ぶことで、将来の進路が明確になってきます。

03 福井県インターンシップ事業の概要

(1)実施主体	福井県
(2)事業受託者	福井県経営者協会
(3)事業目的	インターンシップの定義に基づき、福井県内の企業や産業について理解を深める。
(4)実施時期	8月1日～9月23日 * 大学等の夏期休暇期間中
(5)実施期間	<ul style="list-style-type: none"> ■長期コース(原則2週間) * 多くの大学の単位認定インターンシップは、5日以上 ■一般コース(原則5日間) (週30時間以上)を条件としています。 ■ふくい実践型(長期有給)コースを検討の企業は、福井県経営者協会までお問合せください
(6)参加学生	大学2年生・3年生、大学院1年生、短期大学1年生、留学生・県外出身大学生(2・3年生) 福井工業高等専門学校に在籍する4年生、専攻科1年生 * 2019年より大学2年生、留学生(大学2・3年生)も参加対象
(7)受入企業	県内に事業所を有する企業・団体

04 インターンシップの流れ





05 参加学生の募集方法

福井県内大学等については、**インターンシップ学内説明会**を開催し、参加を呼び掛けます。また、福井県外の大学に進学された学生に対しては、親元に福井県からDMハガキやエントリーシートで参加の呼び掛けを行うとともに、県外大学へも福井県出身の対象学生に周知いただくよう協力を依頼しています。また、**主要都市(東京・大阪・名古屋・京都)**、そして**金沢大学、富山大学、金沢工業大学、京都産業大学、京都女子大学**においても説明会を開催し、広く周知を行い、学生の参加を促しています。(2019年は大阪大学、都留文科大学でのガイダンスも開催予定)

毎年4月下旬に開催する**受入企業合同ガイダンス**には、インターンシップへの参加を検討中の学生にも、各大学から参加を呼びかけていただいています。

06 学生のエントリー、研修先選定、通知方法

申込方法	学生はエントリーシートを各大学の担当窓口へ提出し、各大学で取りまとめの上、事務局(経営者協会)へ送付いただきます。
大学窓口締切り	5月23日(木) *5月30日(木)経営者協会必着
実施コース	2つのコースを実施します。*両方のコースを申し込むこともできます。 ■長期コース(約2週間) B 業務体験型 C課題解決型 ■一般コース(原則5日間) A 業界研究型(職場見学型) B 業務体験型 C課題解決型
研修先選定方法	■長期コース 第1希望と第2希望の2つを選択します。 まず、第1希望の企業へ「エントリーシート」を送付、企業(団体)が選考し決定します。選考に漏れた場合は、第2希望または他の長期コースを斡旋するか、一般コースを希望している学生には、他の一般コース希望者とともに研修先を決定します。 ■一般コース 企業・団体・業界研究・官公庁の中から希望先を5つ選択します。 *官公庁・マスコミは各1まで 事務局がエントリーシートの記載内容を検討しながら、研修先を決定します。なお、学生には受入数の関係で希望に添えない場合があることを通知しています。 * 県内企業を広く理解してもらうために、2ヶ所での研修も積極的に対応します。

研修先決定通知	<p>■長期コース 6月7日(金)に受入可否の通知をいたします。</p> <p>■一般コース 6月21日(金)に受入先を通知いたします。</p> <p>■通知方法 福井県内にある大学等に在籍する学生には、学校担当課より通知します。 福井県外にある大学等に在籍する学生には、本人と大学へ通知します。</p>
---------	--

07 企業への受入学生通知

長期コース	<p>6月3日(月)に各企業の担当者へ、希望学生の有無をご連絡いたします。 希望がある企業へは、まず第1希望先へエントリーシート(コピー)をお届けしますので、返信締切日までに事務局へ結果通知をお願いします。 * 返信締切日:6月7日 その結果を受けて第2希望先や希望者がなかった企業に、本人了承の上で受入をお願いする場合があります。</p>
一般コース	<p>6月21日(金)までに受入学生を決定し、希望学生の有無をご連絡いたします。受入れがある企業へは、学生のエントリーシートを郵送しますので、決定通りに学生を受け入れていただきます。 また、受入企業が決まらない学生に対して、学部や専攻などを勘案しながら、応募のなかった企業へのインターンシップを勧めますが、場合によっては「受入学生なし」となることもございますので、予めご了承ください。</p>

08 平成30年度福井県インターンシップ結果

(1) 申込学生数・参加学生数

	申込数	参加数	H30 年度参加数
県内大学	407名	393名	300名
県外大学	253名	231名	233名
合計	660名	624名	533名

(2) 申込企業数・受入企業数

	申込数	受入数
長期コース	33社	23社
一般コース	193社	164社

09 インターンシップ導入にあたって

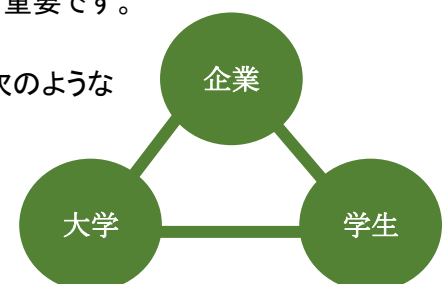
(1) 導入に対する考え方

①原則論の順守

インターンシップの目的はあくまでも教育であり、産学連携による人材育成です。業界・企業・仕事への理解促進を通し、受入企業(団体)の魅力を伝えてください。長期的な視野に立って継続的にインターンシップの学生を受入れる企業においては、こうした趣旨を十分理解して対応することが極めて重要です。

②導入目的の明確化

自社の課題・目標を再認識し、その上で具体的な導入目的を明らかにし、次のような導入効果を踏まえて、それに沿った方向で実施する必要があります。



企業PR	インターンシップを実施することによって、受入れた学生を通じて他の多くの学生や所属する大学等に自社を知ってもらう。
企業のイメージ向上	教育の場としての、質の高いプログラムを学生に提供することによって、人材育成に努める社会貢献度の高い企業として、イメージ向上が期待できる。
企業活動の理解促進	実体験を通して、イメージだけで捉えられていた企業像から、実際の企業活動を理解してもらい、認識を新たにさせる。
新たな産学連携活動への展開	これまでつながりのなかった学部・学科や大学等と新たなコミュニケーションを構築する良い機会です。
社内の活性化	指導対象となる学生を現場に受入れることにより、その指導過程において、既存社員の活性化を行うことが可能となるとともに、職場に適度な緊張感をもたらします。また、若い世代の考え方を知るよい機会となります。

(2) 導入のための社内体制づくり

- インターンシップは“学生に対する教育の場”であるという共通認識が必要。
- 学生を受け入れる現場担当者の理解がインターンシップ成功のカギ。
- 経営トップがプログラムを支持していることを、社内全体に何らかの形で伝えるのが理想的。
- 総括責任者の決定。経営者協会との直接窓口や学生の総括的な管理が行える部署、会社全体を見渡せる総務や人事関係部署が担当することが望ましい。
- 受入責任者の決定。総括責任者と連携をとるとともに、受入担当者の指導・助言を行う。受入部署における最終的な決定権を有する部課長クラスが望ましい。

10 受入プログラム作成にあたって

大学キャリアセンターが推奨する主なインターンシップ・プログラムとは

- 学生が自身の職業適性や将来の進路選択・職業選択に関する気づきが得られる内容を含むもの。
- 受入先の組織・業務・特徴などに関する知識を、学生が習得できる内容を含むもの。
- 社会人として必要なスキルや能力(社会人基礎力)を、学生が身につけることができる内容を含むもの。
- 研修終了時において、学生が当該プログラムでの学びや成長などを振り返る機会が設けられていること。
- 就業体験が含まれていること。
- 研修の全期間、同じ職務が繰り返されるケースもあるので、プログラム内容をよく確認すること。
- 単純作業など、単なる労働力としてみなされる研修内容ではないこと。
- 採用に向けた事前選考のようなものではないこと。

福井県インターンシップ実施にあたり、事務局からのお願い

(1) オリエンテーションの実施

役員クラスの方より、企業概要や業界動向に加え、自社が今後取り組もうとしていることなどについて説明をお願いします。また、学生は社会人としての心得や、ビジネスマナーについての知識はほとんどありませんので、オリエンテーションの中に、マナー指導も行ってください。

福井県の産業や企業・団体を理解することは、自社での採用だけではなく、将来、福井県で就職しようという動機につながりますので、是非お願いします。

(2) 安全に関する説明

参加学生は、大学の進める保険制度に加入していますが、通勤時や事業所内での活動に対する安全教育をお願いします。過去に、昼休みに自家用車で外出し、事故を起こした学生がいました。昼休みの過ごし方なども含め指導をお願いします。

(3) 業務に関すること、守秘義務に関することの説明

事務所や工場(店舗)の見学や説明だけではなく、具体的な業務の一部でも体験できるようなプログラムを検討してください。また、作業開始前に仕事の意義を伝えると同時に、特に気を配らなければならない点についても説明をお願いします。

(4)先輩社員等との懇談

学生は、先輩社員から「就職活動全般について」「入社を決めた動機」「今の仕事に対するやりがい」などの話が聞けることを望んでいます。先輩社員と懇談の機会ができれば、採用時期には応募につながる可能性も高まります。

(5)研修後の評価

インターンシップは、学生にとっての体験学習の場です。したがって、学生に対しては実務経験だけではなく、その過程についても適切に評価し、今後のためのアドバイスをしていただくことで、研修に対する満足度は上がりますし、会社に対する好感度も高まります。

「福井県インターンシップ」では、学生の活動報告や受入内容、体験に関する評価などをまとめて実施結果報告書を作成し、各大学や受入企業に配布しています。

(6)経費に対する考え方

教育の一環として実施されるインターンシップは、あくまでも就業体験です。アルバイトのように労働力として活用するケースとは明らかに異なるため、報酬は支給しないことといたします。又、交通費、昼食費等についても原則として支給しないことといたします。

(7)大学の試験日程等

試験期間は、国公立大学は8月第1週まで、私立大学は7月末頃までとなっています。従い、試験期間を外した時期での受入をお願いします。

11 インターンシップに参加した学生の感想（平成30年度実施報告書より）

研修に参加して得たこと、学んだこと

【業界・企業・職務に対する理解】

- 施工管理の現場見学を通して、その仕事の大変さや、やりがいを聞くことができる貴重な場となった。
- 証券会社の就職を希望。「証券会社で働くとはどういうことなのか」や「商品内容」を具体的に学べた。
- 体験したプログラムは、HTML と Javascript、これまで知らない言語だったので、本当にいい経験になった。
- 介護実習を通し、職員の様子や業務内容が分かった。また、詳細な資料をいただき、大変参考になった。

【職業観】

- 実際に体験することで、「働くことの意義や目的」について理解を深めることができた。
- まだ就職に対して明確なビジョンがないので、それを見つける手掛かりになった。

【経営者面談・先輩社員交流】

- 就職活動に不安を抱えています。同世代の先輩から就職活動の話を知ることができ、大変参考になった。
- 先輩社員と話すことにより、自分に何が不足しているのかを知ることができた。
- 若手社員より、どうしてこの企業を選んだのか、企業の良いところ、悪いところを聞いて勉強になった。

他大学生との意見交換、グループワーク

- 他の学生の言動や積極性に刺激を受けた。就職に対する姿勢が全く違い、見習わなければならない。
- 他大学の学生とのグループワークは、なかなか体験することのできない貴重な経験になった。
- 京都にいと福井の企業情報が入ってこないが、福井出身の学生ばかりだったため、意見交換ができた。

【体験発表】

- プレゼンテーション発表では、大学内とは違う意見を数多く聞くことができ、大いに勉強になった。
- 意見発表会では、実際の面接のような緊張感もあり、良い経験になった。

【ビジネスマナー】

- 間違った挨拶をすると厳しく指導された。厳しい環境があったことは、自分にとってありがたかった。
- ITの会社で、プログラム研修の他に、ビジネスマナーの講習も受けることができたことは良かった。

【総合的な感想】

- 全てを網羅したプログラムであり、とても有意義な職場体験でした。
- 社内発表までの資料作成や当日の緊張感、そして長期間の研修だった分、達成感があって良かった。

研修に参加して不満に感じたこと

- ほとんどが工場見学で、実際に仕事をする事はなかったため、体験とは言い難い。
- 2日目から5日目まで毎日同じ作業体験だったため、物足りなさを感じた。
- 課題に対して終了時間まで一人でこなし、終了後もそれに対して何の助言もない日々が続いた。
- 学生交流なし、体験発表の機会がない、ひたすら資料を読むだけの日や、ずっとPC確認業務だった。
- 社員との交流が少なく、社員の本音を聞くような機会がなかったことは残念だった。
- 研修内容はアルバイトとしても体験できる内容だと思った。
- 仮日程では先輩社員との懇談会が組まれていたが、実際はほとんど機会がなく、不満が残った。
- 1人の先輩社員としか懇談できなかった。幅広く知るために、複数の先輩社員と関わる時間が欲しかった。
- 参加人数が少なく、グループワークは無い。研修作業は個人単位となり、学生交流もなかった。
- 他社インターンシップでは、グループワーク後にフィードバックがあったが、今回は無かったことが残念。
- 言葉遣いなど注意されることがなく、その部分に関してはだんだんと緩んだ態度になってしまったと感じる。

12 学生を受入れた企業の感想（平成30年度実施報告書より）

受入学生について

- 何事にも真剣に取り組み、向上心の高さが目立った。これを機に、機械の知識を高め、モノづくり企業に関心を持って欲しい。
- 業務の理解度は高く、常に明るく、何事にも積極的に取り組んだ。観光業に興味を示す学生が増えたことは極めて喜ばしい。
- 自ら進んで勉強しており、非常に優秀と感じた。即戦力として、どこでも通用すると感じた。
- 働くことの意義など、課題をもって参加していた点が特に評価できる。
- 積極性に欠ける。分からないことは当たり前なので、知るチャンスを活かしてほしい。
- 誠実で真面目ではあるが、積極性・主体性は期待値より低かった。
- 外部の方と接する機会があるため、身だしなみ(髪の色)も大事。学んだことをメモする習慣がない。

インターンシップ全般に関する感想

- 若手社員が学生に教えることによって、自分の仕事を整理し、効率化につながった。
- 学生の受入れることで、社員の工夫が見られた。また、職場が明るくなり、社内活性化にもつながった。
- 意見交換会では社員が刺激を受けており、受入れてよかった。
- なにより、社員のコミュニケーション力が上がった。
- 受入れは、社員にも良い刺激となっている。多くの学生が地元就職に結びつけたらとの思いで実施している。
- 長期インターンは県内就職を意識付けする上で効果的。県外大学の参加をもっと高めて欲しい。

13 研修プログラムの作成

大学は学生に対して、インターンシップに参加する目的や目標を明確にしたうえで、「インターンシップでは何を学び、そこで得た知識や経験をもとに、今後の学生生活や将来の進路選択にどうつなげていくか」、参加後の学生の成長を望んでいます。

多くの学生は受入企業に対して、①企業・業界の理解 ②実務の体験・理解 ③職場の雰囲気を知る ④先輩社員との交流(やりがい・経験談) ⑤研修を終えての振り返り(成果発表) などが体験できることに期待しています。

企業と学生双方にとって、実施後のインターンシップが満足度の高いものとなるか否かは、用意される具体的な研修カリキュラムの内容にかかっています。学生の就業体験という側面も考慮しながら、自社の強みや独自性をプログラムに組み込み、成果のあるプログラム内容にしていきたいと思えます。

★ポイント 学生に対して、(厳しく・やさしく・怒って・褒める)接してください。



〈プログラムを作成しましょう〉

インターンシップ導入の目的を決める
例: 学生に自社の理解を深めてもらい、ミスマッチを減らす

- * 学生を指導することで、社内のOJTスキルを高める。
- * 学生のアイデアを自社に取り込む。

受入れ対象の学生を決める
学部: 文系、理系、問わない、留学生(可否)
学部: 文系、理系、問わない、留学生(可否)
学科: 機械科、電子・情報科、建築、土木 など
その他: ○○業界に関心がある方 ○○職を目指す方
英検2級程度、Word・Excel 中級程度 など

- * 求める人物像の表示は、目的意識をもった学生が参加することにつながります。
- * 現場実習に専門知識がある程度必要な場合は、専攻学科や最低限必要なスキルを示すことで、計画通りの研修ができます。どちらも、求めるレベルを高くすると、学生を絞り過ぎることになり、希望する学生がいないことにもなりかねませんので、お気をつけください。

受入部署を決める
例: 人事部

- * 社長室 人事部 製造部 営業部 ○○店

受入時期を決める
例: 8月5日～8月9日

- * 8月1日～9月23日の期間内で、受入日程を確定していただきます。エントリーする際に日程が決まっていますと、学生は選択が容易になります。「日程は学生の都合に合せます」の表記は、むしろ学生が迷うことになります。

プログラムのタイプを決める
例: 実務体験型

学生が受入企業に着目するポイント
① 知っている企業、将来志望する企業
② 研修内容がわかりやすい、関心の高い内容
③ 特別な体験ができる、何かが得られる内容

- * 受入れ目的によって、自社のプログラムパターンが決まります。

実施日数を決める
例: 5日間

- * インターンシップ受入れ目的と、プログラムの内容により日数を決定します。
- * ①原則5日間 ②2週間(実働10日間) ③2週間以上

プログラム・タイトルを決める
例: エンジニアのやりがいとは? 必ず実感できる5日間!

- * 目に留まるインターンの特徴として、タイトルの具体性があります。「この研修ではどんな事を学べるか」ということを、具体的なキーワードで紹介することで、学生の印象は強くなり、エントリー獲得へ繋がります。

プログラム内容の決定
例: 会社説明、職場見学、製造1課での実習、先輩社員との交流、研修振り返り、発表、役員総評

★プログラムに盛り込む

- a. 企業理念を伝える b. 事業内容を理解させる c. 社風を感じさせる d. 社員とつながりを作る
- e. 仕事の面白さ(やりがい)を伝える f. 社会的役割(貢献)を伝える g. 成長できる環境があることを伝える

〈プログラムの分類〉

<p>A</p> <p>業界研究型 (職場見学型) 5日間</p>	<p>業界・企業の認知度を高めるための広報が主体となります。内容としては、会社・事業内容の説明や現場社員との座談会を通して、職場の雰囲気を感じてもらうことがメインになります。機密保持の必要な仕事、危険を伴う作業など、学生に体験させることが困難な場合は、このタイプになります。また、企業単独では実施が困難な場合は、1つの企業が窓口となり、業界内の複数の企業がプログラムを分担しながら進めていくことも可能です。</p> <p>●業界・企業説明 ●職場見学 ●グループワーク ●役員講話 ●先輩社員との交流</p>
<p>B</p> <p>業務体験型 5日間～2週間</p>	<p>業界や会社についての理解を進めながら、実際の現場で就業体験(疑似体験)をしてもらい、研修最終日にはレポートやプレゼンによる報告を実施します。学生は現場社員の雰囲気を感じたり、役員からのフィードバックによって、自身の適性や方向性を見据えることができます。入社1年目の社員が受ける教育と同じような体験をすることになります。</p> <p>●業務体験 ●職場見学 ●グループワーク ●役員講話 ●先輩社員との交流 ●プレゼン発表</p>
<p>C</p> <p>課題解決型 5日間～2週間</p>	<p>企業が出す課題に対して、学生が企画・実行する内容です。与えられた課題をもとに、自分なりの考えをまとめ、発表するようなスタイルになります。また、仕事に求められる能力や資質を理解させ、今後の成長を促します。</p> <p>●課題解決(マーケティング型、イノベーション型、インフォメーション型)</p>
<p>D</p> <p>実践型 3週間以上</p>	<p>社員と同様の業務を実行してもらいます。学生には業務への責任と仕事に対する成果を求めます。製造現場の実務を担う、経営者の右腕となって働く、インターン生だけで1つの事業を任せられることで、社会の厳しさや仕事のやりがいの両方を得ることになります。一定期間の勤務と、その後はシフト制で勤務する形態が多く、時給を払いつつ、インターン生として仕事をしてもらいます。</p> <p>●プロジェクト遂行 ●社員と同様の業務遂行(製造実務、営業活動、マーケティング活動、プログラム作成)</p>

〈プログラム事例〉

<p>A 業界研究型 (職場見学型)</p>	<p>◆業種 テーマに沿った企業(3社)での就業体験 ◆目的 魅力的な企業の存在を知り、自らの興味や働き方について“気づき”を得る ◆タイトル 若い社員が活躍する情報関連企業を実感しよう! ◆ポイント 形のないもの(情報やメッセージ)を伝える技術、伝える仕事の魅力を感じてもらう</p>
<p>1日目</p>	<p>●オリエンテーション 趣旨・スケジュール説明、自己紹介、役割分担 ●研修 訪問企業・業界のイメージ記入、企業研修の共有、質問作成と発表</p>
<p>2日目</p>	<p>●1社目 IT企業(安心・安全に関わるITシステムの開発) ●オリエンテーション 企業概要、業務内容の説明、防災・減災に必要なITとは何か ●ディスカッション 自社開発・アプリのレビュー大会、機能・コンテンツ内容について討議 ●提案発表 利用頻度を高めるための機能、アプローチ手法などの改善点をグループごとに発表</p>
<p>3日目</p>	<p>●2社目 IT企業(ITソリューション・システムインテグレーション事業) ●オリエンテーション 会社概要、技術職/営業職の役割と、1日の仕事の流れ ●体験 AZURE(アジュール)を使用し、セットアップからサーバー構築までトライ ●質疑応答、グループディスカッション</p>
<p>4日目</p>	<p>●3社目 携帯ショップ ●オリエンテーション 会社概要、店舗見学、携帯ショップの位置付け、店舗スタッフの業務内容 ●体験 料金プラン・サービスなど、その方にとって最適なプランを提案。 グループワーク形式で話し合い、発表</p>
<p>5日目</p>	<p>●研修 訪問企業3社の振り返り、グループディスカッション ●助言 インターンシップの総括、キャリアプランを考える</p>



<p>◆業種 テーマに沿った企業(3社)での就業体験</p> <p>◆目的 魅力的な企業の存在を知り、自らの興味や働き方について“気づき”を得る。</p> <p>◆タイトル 「おいしいね！」食べるに関わる人の想いに気づく5日間！</p> <p>◆ポイント 「おいしいね！」その言葉が生まれるまでにはたくさんの人たちが関わっている。フードビジネス企業の気概と誇りを直に感じてください。</p>	
1日目	<ul style="list-style-type: none"> ●オリエンテーション 趣旨・スケジュール説明、自己紹介、役割分担 ●研修 訪問企業・業界のイメージ記入、企業研修の共有、質問作成と発表
2日目	<ul style="list-style-type: none"> ●1社目 飲食業（一店舗一店舗にこだわりを持ち、個人店のようなお店作りを展開） ●オリエンテーション 自社の歴史、食への想い、今後の取り組みなどの説明 ●体験 新規サービスの企画開発体験] ●提案発表 [新企画を立案し、グループごとに発表]
3日目	<ul style="list-style-type: none"> ●2社目 飲食業（サンドイッチの製造・販売、絵と陶器のギャラリー喫茶経営） ●オリエンテーション 食べ物業界と、当社の事業について ●体験 実際に「サンドイッチ」を作ってみよう！ ●ディスカッションテーマは、決める基準の最上位！ 【会社の雰囲気】から考える。学生の皆さんが今思っていることを、本音で語る
4日目	<ul style="list-style-type: none"> ●3社目 飲食業（洋食専門店） ●オリエンテーション 会社概要、当店の特徴 ●見学 営業前の調理場仕込み見学 ●研修 笑顔とは何か、「ありがとう」の大切さとは、これらの問いを前提に、サービス業とは何かを考える ●グループディスカッション [総括]
5日目	<ul style="list-style-type: none"> ●研修 訪問企業3社の振り返り、グループディスカッション ●助言 インターンシップの総括、キャリアプランを考える



<p>◆業種 部品製造業</p> <p>◆目的 自社のPRと、若手社員の育成。</p> <p>◆タイトル 製造現場の司令塔である生産管理職の“やりがい” その魅力に迫る！</p> <p>◆ポイント 研修と実習を織り交ぜ、理解しながら取り組めるようにした。</p>	
1日目	<ul style="list-style-type: none"> ●オリエンテーション 会社概要の説明、工場見学) ●基礎研修 生産管理の基礎、モノづくりマインドについて
2日目	<ul style="list-style-type: none"> ●生産管理研修 5Sとは 工場内にある5Sを探す ●実習 生産計画の確認、機械の作動、段取り替え ●振り返り 日報記入と指導者からのアドバイス
3日目	<ul style="list-style-type: none"> ●生産管理研修 受注と生産形態の関係について学んでみよう ●実習 生産計画の確認、機械の作動、段取り替え ●振り返り 日報記入と指導者からのアドバイス
4日目	<ul style="list-style-type: none"> ●生産管理研修 生産リードタイムとは、段取り替えの工夫を学ぼう ●実習 生産計画の確認、機械の作動、段取り替え ●振り返り 日報記入と指導者からのアドバイス
5日目	<ul style="list-style-type: none"> ●報告会準備 学生たちで報告資料を作成 ●発表会 参加学生のまとめや気づきの発表 ●助言 研修総評 ●助言 生産管理職の使命とやりがい、今後の成長を目指して



<p>◆業種 総合卸売商社・専門店</p> <p>◆目的 自社のPRと、学生目線のレイアウト企画。</p> <p>◆タイトル 衣・食・住すべてのマーケットでトレンドを創り出す仕事体験！</p> <p>◆ポイント 売場体験を通して、販売からマーチャンダイジングまで学んでいただく内容。</p>	
1日目	<ul style="list-style-type: none"> ●オリエンテーション スケジュール説明、事業内容、接客の心構えと接客基本対応の習得 ●基礎研修 店頭受付業務、レジ業務体験
2日目	<ul style="list-style-type: none"> ●研修 職場紹介、社員交流会 ●売場体験 接客、ディスプレイ、発送手続き、在庫管理、商品発注ほか ●振り返り 日報記入と指導者からのアドバイス
3日目	<ul style="list-style-type: none"> ●研修 売場レイアウト企画準備、社員交流会 ●売場体験 接客、ディスプレイ、発送手続き、在庫管理、商品発注ほか ●振り返り 日報記入と指導者からのアドバイス
4日目	<ul style="list-style-type: none"> ●研修 売場づくりとは、売場づくり体験 ●研修 季節商品、新商品の導入に向け、レイアウト変更案を企画
5日目	<ul style="list-style-type: none"> ●発表会 売場レイアウト企画の発表 ●助言 研修総評 ●助言 キャリアステージについて



<p>◆業種 製造業</p> <p>◆目的 学生視点による採用ツールの作成、社内コミュニケーションの活性化</p> <p>◆タイトル 企画力・洞察力・折衝力・実行力を駆使し、当社の採用ツールを完成させる！</p> <p>◆ポイント 自社の魅力を発見してもらう為に、今後就職を行う世代であるインターンシップ生に企画案を提示することを課題として与えた。</p>	
<p>C 課題解決型</p> <p>(6日間)</p>	
1日目	<ul style="list-style-type: none"> ●オリエンテーション 業界・企業説明、現状と課題、社員紹介、ビジネスマナー ●課題提示 自社の魅力が伝わる、会社説明会資料の企画立案
2日目	<ul style="list-style-type: none"> ●見学 事務所・工場の見学 ●実習 社員へのヒアリング ●振り返り 日報記入と指導者からのアドバイス
3日目	<ul style="list-style-type: none"> ●実習 社員へのヒアリング ●実習 企画書立案
4日目	<ul style="list-style-type: none"> ●実習 社員へのヒアリング ●実習 企画書作成 ●中間報告 企画書の進行確認と修正
5日目	<ul style="list-style-type: none"> ●実習 企画書作成
6日目	<ul style="list-style-type: none"> ●報告会 プレゼン発表 ●助言 研修総評、社員交流
成果	<p>○チームでの企画書の検討を通じて、会社組織での仕事の進め方を学ぶことができるとともに、企画書をブラッシュアップすることができた。</p> <p>○フォーマルな情報を伝え、その後、会社で実際に働く社員の顔写真・コメントを紹介することによりそれ以外の会社の情報を伝えるようにしたことで、メリハリの利いた企画書の提案ができた。</p> <p>○実際の仕事とほぼ同じような内容のタスク(アポどり、訪問)を模擬体験することができた。</p> <p>「働く」ということに対する認識・価値観・考え方の変化。働くことの難しさ・やりがい理解できた。</p> <p>◎社員を巻き込んだ形でインターンシップを行うことで、会社として採用活動を行っている感覚をつくり出すことができた。また、社内コミュニケーションの活性化にも繋がった。</p>



<p>◆業種 弁当のチェーン展開、ファミリーレストラン運営</p> <p>◆目的 飲食業を通じた人材育成と社会貢献</p> <p>◆タイトル お客様が喜ぶ、これまでにない弁当を企画せよ！</p> <p>◆ポイント ターゲットを決め、ニーズとシチュエーションをリサーチ 商品原価と売価を調整し、お客様の要望に応え、自社利益を確保する。</p>	
<p>C 課題解決型 (7日間)</p>	
1日目	<p>●オリエンテーション 業界・企業説明、現状と課題、社員紹介</p> <p>●課題提示 顧客ニーズを掴み、新たな商品を開発、そして自社利益を確保する</p>
2日目	<p>●実習 店舗での接客体験</p>
3日目	<p>●研修 アンケート調査・インタビュー調査</p> <p>●研修 調査のデータを分析</p>
4日目	<p>●研修 メニュー考案</p>
5日目	<p>●研修 メニュー考案</p>
6日目	<p>●研修 メニュー考案</p> <p>●企画書確認</p>
7日目	<p>●報告会 プレゼン発表</p> <p>●助言 研修総評、社員交流</p>
成果	<p>○ニーズ調査のデータを分析した。 価格は500円以下、栄養バランスの整った低カロリーのお弁当が求められていることが分かった。</p> <p>○消費者ニーズを踏まえたメニューを考案した。 ニーズ調査により、求められているメニューは分かったが、理想と価格が合わず、何度も原価計算を行い、人件費、経費、利益、様々なことを考慮して利益も出すために肉の量や、原価の上がっている材料を避ける、容器を小さくする等の工夫をし、理想のお弁当を完成させた。</p> <p>◎実際にプレゼンテーションで発表したお弁当が優秀な商品であると認められ、実店舗で試験販売され、完売するという実績を残した。</p>
○学生 ◎企業	



<p>◆業種 子供服やベビー用品の製造・販売</p> <p>◆目的 今後、海外事業展開を進めていく中で、当社に必要なものは何かを再確認したい</p> <p>◆タイトル 『愛情品質』をコンセプトにしている当社商品を世界に広げる！</p> <p>◆ポイント 企業理念を理解した上で、“世界に通用する企業になる”を課題として与えた</p>	
<p>C 課題解決型 留学生対象 (5日間)</p>	
1日目	<p>●オリエンテーション 企業理念、会社概要</p> <p>●課題提示 世界で最も愛されるベビー用品の海外事業展開</p>
2日目	<p>●研修 総務人事部門、マーケティング部門スタッフとの意見交換</p>
3日目	<p>●実習 店舗体験</p> <p>●振り返り 指導者からのアドバイス</p>
4日目	<p>●研修 企画書作成</p>
5日目	<p>●プレゼンテーション</p> <p>●助言 研修総評、社員交流</p>
成果	<p>○各部門スタッフとの意見交換において、企業理念やものづくりへの想いを学んだ。 企画業務やマーケティング、販売スタッフなどの考えを聞き、ファミリアを理解し、文化の違いまで踏み込んだ。</p> <p>○どうすれば、母国で当社製品を売ることができるかのプレゼンを行った。日本独特の“おもてなし”文化が世界に通用するか、日本と中国の“ギフト”に対する考え方の違い、をテーマにプレゼンを行い、海外事業展開の際のローカライズの必要性を提案した。</p> <p>◎留学生と接することで、異なる文化や考え方に触れることができ、スタッフの成長に繋がった。</p> <p>◎川上から川下まで取り扱っていることから、5日間では期間が短いと感じた。</p> <p>◎海外展開を踏まえて留学生インターンシップを行ったが、春からの留学生採用を決めた。</p>
○学生 ◎企業	



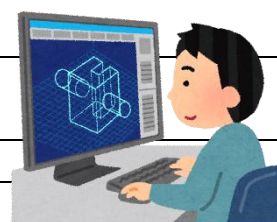
C 課題解決型 (12日間)	◆業種	自動車教習所
	◆目的	“おもてなしの心”を持ち、業務にあたるよう努めてきたが、こうした対応に不足がないか、空回りしていないかを確認する必要性を感じ、学生のチカラを借りた。
	◆タイトル	当社の“おもてなし精神”は顧客に伝わっているか、検証せよ！
	◆ポイント	“おもてなし”は来客対応のみならず、日々の業務における心配りも含め、すべての対応に共通するものであることから、その意義を理解してもらう。
1日間	●業務説明	
3日間	●研修 ●実務	当校の「おもてなし」について、実践内容の説明、これまでの成果データ抽出等 受付業務
4日間	●実習 ●実習	受付業務 アンケート収集、データ抽出、グラフ化等、新たな「おもてなし」の検討
1日間	●研修	「おもてなし」を実践する企業訪問
2日間	●実習	データまとめ、新たな「おもてなし」に関する成果発表準備
1日間	●成果発表 ●助言	研修総評
成果 ○学生 ○企業		<p>○ホームページに掲載しているスクールバスの発着場所について、説明文だけでは分かりにくいと考えられる部分があったため、道順等について写真を添えて案内することとし、利便性の向上を図った。</p> <p>◎インターンシップ生が提案した教習所内における利用者アンケートを実施することで、「おもてなし」の原点(言葉づかい、声の大きさ、来所者対応など)を再確認するとともに、所内マニュアルや企業理念などを見直すに至った。</p> <p>◎「おもてなし」の部分はこれまでも実践してきた分野ではあるが、その内容が本当に受け入れられているかどうかの検証が実質手つかずとなっていた。インターンシップ生を受け入れ、提案させることで、教習所としての基本的な姿勢や考え方は誤っていないことを確認するとともに、全所員がこれまでの取組を改めて見直す機会となり、今後取り組むべき点も明確となった。</p>

D 実践型 (20日間)	◆業種	市立図書館
	◆目的	大学の50周年記念行事を兼ねて企画
	◆タイトル	小説を題材とした見学ツアーの企画と運営にチャレンジ！
	◆ポイント	小説「青が散る」を題材としたツアーを企画し、運営することを課題として与えた
	◆期間	8月3日～10月5日のうち20日間
7日間	●研修	企画立案に向けて ・取材 ・ルート案の策定 ・行程表の作成 ・各種図書館イベントの補助、業務説明
6日間	●実習	広報 ・チラシ作成 ・報道提供の資料作成 ・ツアー案の随時修正 ・各種図書館イベントの補助
7日間	●実習	実施、報告 ・記者会見 ・最終リハーサル ・ツアー実施(当日) ・図書館の運営会議に報告 ・各種図書館イベントの補助
成果 ○学生 ○企業		<p>○図書館が地元作家のPRを行う企画趣旨、大学の50周年記念行事としての位置づけを理解し、ツアーの広報に積極的に取り組んだ。報道提供(全国紙と地方紙の3紙に掲載)、記者会見を実施。チラシやCATV・FMラジオ等、多様なメディアでの広報活動を行った。</p> <p>○ツアー当日に併せて開催した行事に発表者としてインターンシップ生2名が出演し、観衆の前で文学の魅力伝えるプレゼンテーションを行った。</p> <p>◎館外でのイベントは本ツアーが初めてだった。現役の学生が作品(青春小説)の舞台を案内するという斬新なツアーで、参加者は定員に達し、盛況だった。今後、図書館が市民参加型のイベントを館外で実施する契機となると考えられる。</p> <p>◎インターンシップ生が実施したツアーが成功したことで、館外でのイベントについて実績ができた。読書だけでは得られない体験型のイベントの企画を進めるうえで、よい契機となった。</p>

<p>◆業種 家具、建具の製造販売</p> <p>◆目的 木材に関する普及、学生の持つ新しい発想やアイデアへの期待</p> <p>◆タイトル 木の特質を活かした新商品の開発と販路の開拓</p> <p>◆ポイント 木製品の3D加工機を活用した自社オリジナルの新商品の開発と、その新商品の市場開拓を課題とした。</p> <p>◆期間 6月～11月のうち18日間</p>	
3日間	●工場見学および説明、新商品開発に向けた検討等
3日間	●新商品開発に向けた検討 ●学生向けアンケートの実施等
2日間	●中間報告会 新商品開発に向けた検討等
4日間	●試作品製造 ●マーケティング ●販促検討 ●報告会資料作成等
3日間	●報告会資料作成等
3日間	●広報素材の作成、報告会資料作成等、最終報告会
成果	○商品を利用する立場の方の意見を商品開発に取り込んだ。既存製品を利用している障がいのある人からの意見を取り入れることで、利用者のニーズに応じた新商品とすることができた。
○学生	○マーケティングなど大学で学んだ知識を活用し、売上げとコストのシミュレーションを実施した。新商品の開発だけでなく、売上げやコストのシミュレーションを行うことにより、新商品の営業における販促に向けた補足資料として活用することができた。
◎企業	◎今まで固定客を中心に事業を行っており、市場開拓や営業活動に向けたヒントを得ることができた。 ◎学生の持つ新しい発想やアイデアなどにより、ユニバーサルデザインに優れた商品開発につなげることができた。



<p>◆業種 プリント基板検査システムの開発・製造</p> <p>◆目的 システム開発のやりがいを実感していただく、学生の自己成長を促す</p> <p>◆タイトル プログラミングに挑戦、不良解析ソフトウェアの開発に取り組む</p> <p>◆ポイント プログラミングに必要なスキル(課題発見・解決力、実行力)を磨くことを重視</p> <p>◆期間 8月24日～9月30日のうち20日間</p>	
1日間	●オリエンテーション [業界について、会社概要、ソフトウェアの仕様説明]
10日間	●開発環境整備・設計業務(コーディング) ●中間報告、社員交流
7日間	●設計検証(デバッグ、改良) ●中間報告、社員交流
1日間	●取扱説明書作成
1日間	●成果検証・まとめ・報告 ●助言 [研修総評]
成果	○未経験のソフトウェア開発環境であったが、様々な文献等を調査するとともに、担当指導員への質問を行うなどし、環境に適応できるよう努力を行った。
○学生	○画面上で使用者がボタンを押し間違えることがないようにボタン配置に工夫をし、また、エラーメッセージ表示機能を加え、最終確認ができるものとした。
◎企業	◎ソフトウェアのプログラミングにあたり、今後のシステム改良に役立てるよう、計算方法を汎用性のある演算に改善した。 ◎社内でのソフトウェアの最終プレゼンにおいて、プログラミングについて内容を整理のうえ説明があったが、大変理解しやすいものであり、参考になった。 ◎インターンシップ生が開発したソフトウェア内蔵のプリント基板検査システムは、製品化に向けた調整を行っており、来年度中にリリース予定。



14 実施スケジュール(参加企業募集・エントリー締切、受入企業合同ガイダンス)

- 3月25日(月) 受入企業エントリー開始(福井インターンシップ NAVI より入力)
- 4月 5日(金) 受入企業向け説明会(於:福井商工会議所)
- 4月12日(金) 合同企業ガイダンス参加申込締切
- 4月15日(月) 受入企業エントリー締切
- 4月27日(土) 合同企業ガイダンス(於:福井商工会議所)

15 実施スケジュール(マッチング、結果通知、研修日程)

- 5月23日(木) 学生エントリー締切(大学窓口)
- 6月 3日(月) 長期コース 受入企業へエントリーシート送付
- 6月 7日(金) 長期コース 受入企業のマッチング結果返信締切
- 6月21日(金) 一般コース 受入企業へエントリーシート送付
- 7月15日(祝) 事前研修会(参加学生対象)
- 8月 1日(木) インターンシップ開始
- 9月23日(日) インターンシップ終了
- 11月 2日(土) 事後研修会(参加学生対象)

16 インターンシップ開始前

(1) 研修希望内容連絡票の提出(学生→企業)

参加学生向けの事前研修会では、マナー研修を実施するとともに、「研修希望内容連絡票(体験したい内容・詳しく知りたい事項)」を、7月末日までに各企業担当者へ提出するよう義務付けています。

これは、より充実した研修となるよう、学生は事前に企業研究を行い、産業への興味を持たせる意味もあります。企業の皆様には、対応可能な内容であれば受入プログラムの中に反映いただければ幸いです。

(2) 学生との打ち合わせ

参加学生には企業担当者へ、事前に日程・服装・持参するもの・通勤手段について確認するよう指導しています。また、出身大学によっては保険対象(学研災附帯賠償責任保険など)にするために、学生受入に関する「覚書」の締結を依頼される場合がありますので、各受入企業での対応をお願いします。

17 インターンシップ実施

学生との打ち合わせを行った内容に基づき、インターンシップを行ってください。尚、研修中に事故等が発生した場合は当協会までご連絡ください。

18 インターンシップ終了後

福井県インターンシップ実施結果報告書(企業→事務局)

インターンシップ終了後、2週間以内に福井県経営者協会まで、「実施結果報告書(受入学生に対する感想、アンケート)」の提出をお願いいたします。

